

## II. 復元工事の概要

### 1. 復元の考え方と設計方針

#### 1-1. 復元の種類と選択

歴史的建造物の復元にはさまざまな段階や方法が考えられる。平面、立面はもとより、材料から工法までも完全に原建築に忠実に合わせて再現しようとする完全な復元は、由緒ある茶席などにおいて事例が多い。また、材料構造は全く別種のもので主として外型、視覚的表現をのみ考える復元が、城の天守閣などでしばしばおこなわれている。その中間的な、視覚的には内部外部ともに原形の再現を図りながら、材料や工法は全く別の方法による復元もある。それらのさまざまな考え方の違いは、復元の目的、資料の貧豊、予算、法的制約、技術力や材料供給など、多くの条件によって生ずるものであり、その選択に当っては慎重な配慮が必要である。

彦根城表御殿の復元は、特別史跡内の建造物という文化史的な意味の重さからも、できるだけ完全な復元が要望される一方、国宝を含む多数の文化財を収納展示する博物館としての現代建築の機能が要求されている。この性格的にはほとんど相反する基本的条件をどのように調和させるか、ということが復元設計の最大の問題点であった。数次にわたる試案作製と討論をかさねた結果、次の基本方針が決定された。

- (1) 博物館本館として必要な約3,500㎡を、耐火構造による外観復元とする。
- (2) 唯一の残存遺構である能舞台は大修理を加えて移築復元する。
- (3) 全国的に遺構例のない奥向きの殿舎は極力完全復元を目指す。
- (4) 石組遺構の発掘された池泉庭園、その他、門、塀等の外構工作物は完全復元する。

#### 1-2. 復元の年代設定

井伊家文書中に伝来する表御殿の古絵図は数種、数十葉あるが、いずれも製作年代が特定できないために、それから推測される御殿の変化の歴史的展開を正確な年代でとらえることは難しいが、築城以来明治初年までの変容の大筋は読みとれる。(第一冊、II. 表御殿を描いた絵図、参照)

表御殿は大きく二つのゾーンに区画される。すなわち、大広間や書院(対面所)を中心とする公的施設としての「表」と、御座之間、御客座敷、局などからなる私的空間の「奥」とである。このうちの「表」に関しては、創設以来大きな変化は見られず、江戸時代初期の建物がそのまま使われていたと考えられる。これに対し、「奥」の部分は何度かの増改築を重ねたと考えられ、おそらくは藩主の世代交代ごとに、多少の差はあれ、改変が加えられてきたものであろう。

跡地の全面発掘調査の結果、上記の古絵図との照合により、表御殿全体について大きく二つの時代が確認されるとともに、古絵図の信頼性が実証された。

ところで、御殿復元の実施にあたり、どの時代の姿に復元するか、ということが一つの大きな問題であったが、この御殿が明治初期に人為的に破却された経緯から、破却直前、あるいは江戸時代後期の姿に戻すことが、ほぼ議論の余地なく了承された。資料の面からも、室内の起し絵図などの重要な資料がほとんどこの幕末～明治期のものと推定され、正確な復元はこの時代に焦点を定めることで見通しが立てられた。

### 1-3. 復元の規模と範囲

復元の年代設定により、その時期の全容を古絵図と遺構とにより策定してみると、「表」部分が約910坪余そして「奥」部分が約480坪余、合計約1,400坪である。ただし、この「坪」は京間1間角の意味で、換算すると約5,430㎡、6尺＝1間の坪計算では1,640余坪となる。棟数では大たい30棟と考えられる。(図-1)

当初は、この全部の復元が考えられたが、西北側の部分は急傾斜面の直下に迫っていて崖地際の建築に対する建築安全条例に抵触することもあり、裏廻りの通路確保の必要もあって、局の一棟、台所の一部、その他、崖際の数室は復元しないことにした。また、主屋から離れて点在する土蔵や茶室などで資料的に不十分なものは除外し、結局、約85%の部分を復元することとした。その大部分は平屋であるが、局の一棟、御亭、土蔵一棟は二階建である。また、外観復元の建物の中で、収蔵庫にあてる部分は、空間を効果的に利用するため、内部を二層とした。そのため、建築の面積は次表のようになった。復元建築の平面図は、図-2のようになった。

表1. 彦根城博物館面積表

(単位: ㎡)

	表向舎殿	奥向舎殿	別棟附属建物			能舞台		小計	延床面積
			専門事務所	水槽棟	蔵棟	移築	新築(楽屋)		
外観復元部分 (鉄筋コンクリート造)	2,766.318 (2階収蔵庫) (221.854含まず)	722.758 (2階収蔵庫) (40.579含まず)	106.725	58.214	87.320 1F 43.660 2F 43.660	—	—	3,741.335 (262.433)	4,851.165㎡    4,588.732㎡ +
木造復元部分	48.510	644.941	—	—	—	117.445	36.501	847.397	(262.433) RC棟2階 収蔵庫部分 収蔵庫部分
	2,814.828 (221.854)	1,367.699 (40.579)	106.725	58.214	87.320	117.445	36.501		4,851.165㎡